

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370202594		
法人名	有限会社 グループホーム 愛		
事業所名	グループホーム 愛 (1F, 2F)		
所在地	倉敷市西阿知町新田359-1		
自己評価作成日	平成 30 年 10 月 25 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan1=true&amp;JigogyoCd=3370202594-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan1=true&amp;JigogyoCd=3370202594-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 30 年 11 月 26 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念にある通り「拘束・束縛のない暖かい介護」を目指し、全職員が利用者の心地良い暮らしの確保のための支援に努めています。また200坪ある広い庭では家庭菜園や花見を楽しむことができ、畑の中には車椅子の方も散歩できるようになっています。そこは、季節を感じ人の温かさを感じるこの出来る空間となっています。またホールも広いスペースを確保しており、利用者の表情や様子を一目で見ることができるよう造りになっています。利用者の皆さんに自分らしく過ごしていただくために穏やかでホッと出来る環境を作り、私たちに出来る支援を模索、ご家族の協力も得て、ホームで過ごす皆が笑顔で過ごせるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の意見や要望を取り入れた食事メニューであり、庭の畑で採れた新鮮な野菜や季節の物を取り入れながら、各ユニットの専任の調理員が3食手作りしている。調理場から漂う匂いや音が利用者の食欲をかき立て、職員と利用者が同じテーブルを囲み会話を楽しみながら和気藹々と食事をしている。整理整頓された広いホールは清潔感があり、利用者が歩きやすい動線を考えた作りとなっている。また、温度・湿度の管理に気を配り、臭いもなく衛生管理が行き届いている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念としている通り、入居者の立場となりその方らしく生活できるように心の通ったともに喜び合える暖かい介護でのケアを目指します。家庭的な雰囲気大切にホームを目指している。	理念を事務所や各ユニットの管理室に掲示し、ユニットごとに行う職員ミーティングの中で振り返っている。また、運営推進会議の時に代表者が理念について説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣には、住宅も少なく、地域での行事もない。公園など散歩に出かけたときなどは、近隣住民との会話も出来るが、なかなか日常的とはならない。	事業所主催の行事には、地域のボランティアが参加している。幼稚園や小学校は事業所から離れているため交流までには至っていないが、民生委員に間に入ってもらい、来年から幼児クラブと交流できないかお願いしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を実施することにより、認知症の方への理解や事業所の実情の理解を得るように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の実施により、得た情報や尽力によりサービスの向上に努めている。	家族や民生委員、地域包括支援センター、他事業所の職員が参加して、現状報告や話し合いを行い、出た意見や提案をサービス向上に活かしている。また、市からサロンや研修案内があり、積極的に参加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常に生じる疑問等は介護保険課・指導監査室に随時相談している	代表者と管理者が窓口となり、電話したり、市へ出向いたりして、密に連携を図っている。市主催の研修には積極的に参加しており、持ち帰った内容をミーティングで報告し、全職員で情報共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的な勉強会を行うとともに身体拘束のないケアに取り組んでいる。	年3回、ユニットごとに職員ミーティングの中で管理者や代表者が講師となり、実例や資料をもとに勉強会を行っている。また、積極的に外部研修にも参加しており、参加した職員が講師となり、ミーティングの中で勉強会を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な勉強会を行うとともに虐待のないケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な勉強会で知識を習得している。身寄りのない利用者に向け、関係機関の協力を得て後見人制度活用した過去あり。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際の説明は十分に行い、利用者や家族が不安や疑問に思うことがないように努めている。また改訂を行う場合は、事前に契約者から同意を得るようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者中心にどの職員も家族との交流を十分に行うようにしており、その場で様々な意見交換を行い、最良の方法を模索するよう努めている。外部者とは運営推進会議の場を利用することでその場を設けている。	利用者の意見等は、日々の会話の中から把握している。また、記録に残し、職員で話し合いながら出来る限り実現している。家族は面会時や電話連絡の際に意見や要望を聞くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、職員の意見にも常に耳を傾けてくれる。そして、早期解決に努めてくれる。	日常的に代表者は職員へ声かけしており、何かあればその都度、話し合う機会を設けている。また、出た意見や要望は管理者から代表者に伝え、情報共有すると共に、対応結果については必ず職員にフィードバックしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、より働きやすくするために職員の意見に耳を傾けてくれる。また職員の努力も見逃さず、やる気を引き出してくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員の質の向上に常に努めてくれ、研修等の提案をしてくれる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議等を含む様々な機会に同業者との交流も充実させより良いケアが行えるようにしていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前から初期の段階では管理者・ケアマネが中心となり馴染みの関係を構築。もちろん全ての情報は職員間で共有し、徐々に馴染みの輪を広げていけるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から初期の段階では管理者・ケアマネが中心となり馴染みの関係を構築。もちろん全ての情報は職員間で共有し、徐々に馴染みの輪を広げていけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前・初期の段階で、ご家族・利用者・関係機関からの聞き取りを行い、より利用者の希望・ご家族の意向に近づけるようにする。又その事を職員間で共有出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の「好きなこと」「得意なこと」「出来ること」の把握を十分に行い、時には家族となり、時には友人となり信頼できる相手となるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と利用者家族は、出来るだけの情報交換して、「家族だから出来る事」「職員だから出来ること」などを念頭に置き、お互いの方向性を揃えた上で介護に当たっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者一人一人の今までの生活スタイルを大切にしてい、その時々々の希望に応じたその方らしい生活をするための環境作りや精神的ケアに努めている。	家族の協力のもと、お正月やお盆に自宅に帰る利用者や、墓参りや外食、ゴルフなどに出かける利用者がある。また、携帯で友達と話をしたり、職員と一緒に自宅付近や馴染みの場所へドライブに出かけたりするなど、各利用者の生活習慣を尊重しながら関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者のその時々々の様子の把握に努め、状態に合わせて無理のない範囲での関わり合いは常である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当ホーム退所後も必要に応じてご本人やご家族と連携をとり支援することは当然の事と思う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中や、定期的な見直しの中で利用者の求めている事の把握に努めている。	個別対応時に思いや暮らしの希望・意向を把握している。また、表情や仕草からも確認している。食べ物の希望があれば主治医や家族と相談しながら、個々に合わせて検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者一人一人の趣味などを生かして家庭的な雰囲気の中で生活できるように、職員間で利用者の情報を常に共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者が、今できること、したいことの把握に努め、その情報は職員間で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に家族やケアマネ・担当者等が意見交換できる場を設けている。それを生かし、利用者の希望もふまえた介護計画の作成に努めている。	介護計画の更新やモニタリングは6ヶ月ごとに行っている。気になる利用者に対しては、職員ミーティングの中で話し合っている。更新が近くなると家族へ連絡し、ケアプランについて意見等を伺っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、個人記録・業務日誌に記載されており、PCで管理している。また、情報伝達として別に情報共有のための「申し送りノート」も設けている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その方に必要なケアは環境により変化するとの認識を全職員が持っている。必要に応じて柔軟な対応をすることは当然と思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知の進行・ADL低下などを理由にご本人が取り組むことは難しくなったように感じる。可能な限り出来ることを模索し、ご家族の協力も得ながら楽しみのある豊かな暮らしとなるように支援するのは当然と思う。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・ご家族の希望を踏まえながら、「かかりつけ医」を大切にしている。	以前からのかかりつけ医を継続している。基本、受診対応は家族をお願いしている。週1回、訪問看護を利用しており、24時間対応なので何かあれば連絡・相談し、指示を仰いでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホームに看護職は不在だが、週に1回の訪問看護を実施。訪問看護時・定期受診時には現状報告を常に行い、相談し指示を得ている。その内容は全職員で共有している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者の入院に際し、サマリーを作成し医療機関に提供することで、出来るだけ変りない支援が継続されるように努めている。、医療機関の相談員・ご家族とは連携を密に取り、今後の方向性を模索しつつ利用者様にとって最良の判断が出来るよう話し合いを重ねている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	そのような状態が近づいた時、協力医療機関でもある訪問看護ステーションとの連携をとりながら、主治医・ご家族・利用者の意向を十分に確認した上での支援を心がけ、必要に応じてかかりつけ医を変え、よりスムーズな対応が出来るように努めている。	入所時、利用者と家族に重度化した時の対応方針を説明している。年数回、職員会議の中で重度化した場合や終末期の対応について、勉強会を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的なマニュアルの見直しにより知識の共有は出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な日中・夜間を想定した訓練を行っている。また地域の方にも理解と協力を得られるように運営推進会議の場を利用して働きかけに努めている。	年2回、マニュアルに沿って避難訓練を実施しており、利用者も参加している。災害時の連絡網は作成しているが、活用はこれからである。水や缶詰、おやつ、日用品などを備蓄している。	災害訓練の実施と連絡網を活用した取り組みに期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき行っている。「身体拘束・虐待は絶対ないこと」を厳守して一人一人に寄り添った対応をするようにしている。	居室の入り口に暖簾を掛け、ドアを開けていても中の様子が見えない様に配慮している。年1回、管理者が講師となり、職員ミーティングの中で接遇に関する勉強会を開いている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人一人の生活歴・認知状態に応じて声掛けの工夫・選択肢の提供をすることで、その方らしい生活が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の利用者のペースに合わせたケア・希望するケアが出来るよう職員間で徹底している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしく居ていただくための支援に努めている。定期的な訪問理髪の実施をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が調理することは近日難しくなっているが、庭で出来た野菜の収穫や下処理・食後の片付けなどは本人の体調・気分も考慮しながら職員と共にしている。	利用者の意見を取り入れたメニューであり、庭の畑で採れた季節の野菜を取り入れながら、専任の調理員が3食手作りしている。調理場から漂う匂いや音が食欲をかき立てている。職員と利用者が同じテーブルを囲み、会話を楽しみながら和気藹々と食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量の把握を行うとともに、必要に応じて医師の指示も仰ぎながら摂取介助も行っている。個々に応じた食事形態・水分補給の方法を考慮し支援に当たっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前にもうがいを習慣づけている。食後もしっかりと口腔ケアを行い、義歯については夜間帯に洗浄することも常になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声掛けを行うことにより自立に向けた支援を行っている。	日中は全員トイレで排泄している。夜間は利用者一人ひとりに合わせて(ポータブルトイレやパット交換等)対応している。排泄パターンを把握することで、失禁が減るなどの改善もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者一人一人の状態を把握することに努め、水分補給や軽い運動・入浴時のマッサージをするように努めている。また主治医の指示の元、下剤を服用していただくことで定期的な排便が促せるよう心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応入浴時間帯は設けているが、利用者の希望によってはそれを変更する。	週3回、午後を中心に入浴支援を行っている。車椅子の方はシャワー浴と足浴で対応している。毎日入浴することも可能であり、入浴剤や季節のゆず湯を取り入れながら入浴が楽しくなる様に工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の体調・希望に応じて生活してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に変更がある場合は必ず職員間で情報を共有できるようにしており、誤った服薬とならないように、管理・見守りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の役割・したいこと・出来ることの把握に努め、それに取り組める時間帯を設けることで気分転換・充実した時間が送れるように援助している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	利用者の希望を考慮し、ご家族・友人の協力も得ながら出掛けられるよう支援している。	日常的に洗濯物を干したり、庭に出て散歩したり、庭でおやつを食べたりしている。また、友人と一緒に外出して、外食や娯楽を楽しむ利用者や、家族の協力のもと、お正月やお盆に自宅に帰ったり、墓参りやゴルフなどに出かける利用者もいる。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族からの依頼で職員が行っているが利用者の希望に応じて、職員と共に買い物に出掛けることも出来る。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望・家族の希望に応じて、手紙や電話をかけられるような支援をしている。文字が書けなくなった利用者には代わり職員が代筆して手紙を書くこともある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の作品や行事の写真等、季節的な物を取り入れて、ユニットの特色を持った空間作りに努めている。	ホールには利用者と一緒に作成した作品や行事の写真が掲示され、季節感を身近に感じることが出来る。また、利用者が歩きやすい動線を考えた作りとなっている。温度・湿度の管理に気を配り、臭いもなく衛生管理が行き届いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の希望も考慮し対応している。共同生活の中で自然と固定された自分の居場所が生まれ皆落ち着いて過ごすことが出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人一人の趣味を生かして家庭的な雰囲気のなかで暮らせるように居室には利用者の使い慣れた物の持ち込みを推進している。また生活しやすい環境作りにも工夫を凝らしている。	自宅で使い慣れた布団や毛布を持ち込んでいる。また、居室内で趣味の編み物をしたり、CDやDVDを鑑賞したりして楽しんでいる。個々に居心地よく過ごせる様に工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が場所間違いをして他者とトラブルになるようなことがないように家族の了解を得て自室には表札をかけている。自室以外の場にもわかりやすいように目印をつけ、誘導している。		